



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
5/11 (月)	+ 1,900	▲ 8,300	▲ 6,400	流動性供給 国庫短期証券発行償還 (3M・6M)	国債補完供給 +1,400		
5/12 (火)	+ 1,500	+ 5,000	+ 6,500				日：日銀金融政策決定会合における主な意見 (4月27日・28日分) 米：CPI (4月)
5/13 (水)	+ 1,500	▲ 29,500	▲ 28,000	国債発行 (10年) 源泉税揚げ	共通担保 ▲ 8,000		日：経常収支 (3月) 米：PPI (4月) 欧：ユーロ圏GDP (1Q)
5/14 (木)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000				日：日銀の増一行審議委員が 鹿児島経済同友会で講演 米：小売売上高 (4月)
5/15 (金)	+ 1,000	▲ 6,000	▲ 5,000	国債発行 (30年) 国債発行償還 (個人)			米：パウエルFRB議長の任期満了 ：鉱工業生産 (4月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は7日、税・保険揚げ等の影響により前営業日対比7兆7,900億円減少の45兆8,500億円から始まり、8日45兆3,500億円（速報）で越週した。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まり、その後も概ね横ばいで推移した。
ターム物は1W～3W物0.733%～0.860%のレンジ、1M～3M物0.830%～1.050%のレンジで出合が見られた。
来週の予定は、国内では12日に日銀金融政策決定会合における主な意見（4月27日・28日分）の公表、14日に日銀の増審議委員の講演、海外では12日に米CPI（4月）、13日にユーロ圏GDP（1Q）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.78 ~ 0.90
2M	0.90 ~ 1.00
3M	0.95 ~ 1.05
6M	1.10 ~ 1.40

<レポ>

足許GCは週を通して0.75%～0.755%の狭いレンジでの出合いとなった。短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470～482回債、5年155～183回債、10年356～372、378～381回債、20年110～130回債、30年86～89回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70台
CP 3M	0.9 ~ 1.1

<CP>

今週の入札発行総額は約3,000億円で、週間償還額の2,750億円を上回った。発行残高は、先週末時点の23兆2,984億円から、5月7日時点で23兆3,413億円へと増加した。発行市場では、営業日が少なかったものの、建設業などで、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.7%台から0.9%程度の水準で取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆4,800億円となっている。発行市場は、連休明けの調達再開により、引き続き発行超が見込まれる。発行レートは、次回利上げのタイミングを慎重に見極める動きから、引き続き水準を探る展開が続くだろう。

<TDB>

7日の6M（第1379回債）の入札は、最高落札利回り0.9297%（前回債0.9524%）、平均落札利回り0.9197%（前回債0.9464%）となった。8日の3M（第1380回債）の入札は、最高落札利回り0.8501%（前回債0.8374%）、平均落札利回り0.8416%（前回債0.8316%）となった。来週の入札は15日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。